小平図書館友の会　会報 49 号

ネット公開版

発行日　2023 年 5 月 15 日
発行者　小平図書館友の会会長　剣持　香世

ウェブサイト　https://kltomonokai.wixsite.com/my-site
ブログ　http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/
E メール　kltomonokai@gmail.com

ウェブサイト

ブログ

もくじ

チャリティ・ちょこっと古本市 1
思い出の本たち　～こどもの頃からいままで、心に残った本～ 2
学習会報告　YA を楽しむ会　読書サークル・小平β 3
図書館について学ぶ会・ハンディキャップサービス学習会 4
講演会予告　６月 18 日 牧野伊三夫さん　10 月 29 日 小松由佳さん 4

ちょこっとだけ開催します

チャリティ・ちょこっと 古 本 市

日時：５月 27 日（土）10 時～15 時
場所：小平市中央図書館　前庭　（雨天中止６月３日に順延）
販売する古本の種類：一般書、文庫など…当日のお楽しみ！
価格：基本 30 円、50 円（一部例外あり）
＊当日の古本の引き取りはありません。＊マイバッグをご持参ください。
＊売上金は積み立てて、小平市図書館充実のために役立てます。
問合せ　０８０-３０２８-８３４５　（内田）

小平図書館友の会のチャリティ古本市は毎年開催されてきました。
第 22 回を迎えたところでコロナ禍にはばまれ３年間中止を余儀なくされました。
安価で古本が買えること、家にある本が整理できること、次の人に読んでもらいたいからなど、たくさんの方々から支持されてきた古本市でした。ここへきてようやくコロナも落ち着いてきた様子です。元のような大掛かりな市ではありませんが「ちょこっと」だけ販売し、「ちょこっと」だけ楽しんでいただける一日を設けました。
ぜひ足をお運びください。そして宝探しをお楽しみください。

小平図書館友の会主催 講演会のお知らせ
６月 18 日（日）　小平在住の画家　牧野伊三夫さん
10 月 29 日（日）　ドキュメンタリーフォトグラファー　小松由佳さん
＊詳細は４ページをご覧ください

思 い 出 の 本 た ち
～ こどもの頃からいままで、心に残った本 ～

『ニルスのふしぎな旅』
セルマ・ラーゲルレーヴ
（中央図書館長　利光 良平）

子どもの頃ＮＨＫでアニメ放送された本作に刺激を受け、原作を読んでみたものです。

北欧スウェーデンの最南部に住むニルス少年が、妖精に魔法で小人にされてしまい、ガチョウの背中に乗ってスウェーデン最北部のラップランドまで往復する話で、鳥瞰的に地理や自然に興味を持たせるような内容です。私も子ども心にスウェーデンという国に興味を持つきっかけとなりました。その後二十歳の時にひょんなことからスウェーデンを放浪する機会があり、野生のブルーベリーを摘まみながら道のない原野を跋渉したり、雪渓の上を走るトナカイやオオツノシカを間近で見たりして、実際の風景の中で物語の世界観に浸ったことを昨日のように思い出します。

『大地』　パール・バック
（守屋 克美）

中学一年生のとき、教育実習生の若い女の先生がやってきた。舞い上がって思わず、「胸囲（私は当時バストという言葉を知らなかった）は何センチ？」と訊いてしまった。先生は顔を真っ赤にし、担任はブチ切れた。今ならセクハラ、完全にアウト。

悪いことをしたと思い、先生が授業で紹介したパール・バック『大地』を買って読んだ。平凡社版の世界文学全集だったと思う。上下二巻二段組みの大著だった。小さい字で読めない漢字も多く、正直なにが書いてあったかよく覚えていない。試練を乗り越えようとする農民の姿に共感しつつも、一方で娼館通いするふしだらさが子どもの私には理解できなかった。読み直してみたい。

『罪と罰』　ドストエフスキー
（大宮 信光）

高一か高二の頃、読んだ。今にして思う。死体が埋まっているからこそ、桜の木は満開に花咲くのではないか。今こそ思う。浄土真宗の悪人正機に通じる何かがあるのではないか。

ラスコールニコフはすべての人間を「凡人」と「非凡人」とに分ける。凡人は従順に生きねばならないが、非凡人はあらゆる罪を犯し、勝手に法を踏み越えることができるという。とすれば、非凡人たる権力者は人を殺める権利があり、義務ですらあるということにあいなる。

しかし、そもそも、どうしてすべての人間を「凡人」と「非凡人」とに分けることができるのか。多くの人を殺め、しかも罰せられない人を非凡人というだけのことではないか。

第三次世界大戦への転落とそれをなんとかくい止めようとする綱引きが始まっている現代、ドストエフスキーを読み返す底流が始まっていると感じる。

『津軽』　太宰治
（渡部 紹子）

「ね、なぜ旅に出るの？」「苦しいからさ」の書き出しで始まる『津軽』。太宰 35 歳の時の作品である。

戦争も末期、太宰は故郷津軽（青森）を見ておこうと旅に出る（五所川原、金木、小泊等）行き先々で忘れえぬ人々の温情にふれる。

太宰には、どうしても会いたい人がいた。津島家（実家）の女中であったタケさん。

タケさんは幼い修治（本名）に本を読むことの楽しさを教えてくれた人、自分の人生を確定させてくれたようなものだと書いている。

子供の頃からの読書好きが、偉大な作家になる基となったのでしょう。

生涯、太宰は 273 編を書いたそうです。『津軽』もその一編ですが、この作品は「津軽風土記」として及第であろうと記している。

このことについては、序編に詳しく書かれている。

二十代の時、姉に薦められて読んだ『津軽』。内容にひかれ何度か津軽（青森）を訪ね歩いた。

『母をたずねて三千里』
エドモンド・デ・アミーチス
（鵜飼 恵）

私は終戦後の混乱期を疎開先である父の郷里三重県鳥羽で過ごしていました。

当時は食べるもの、着るものなどすべて不足していて、まして新しい本など望むべくもない生活でした。

ある日、母がどこからか新しい本を借りてきました。『母をたずねて三千里』です。ザラザラの紙に印刷も悪く粗悪なものでしたが私たちは狂喜しました。母は早く返したいと思ったのか、三人を前に読みきかせをしたのです。

始まるや否や私は可哀そうだと言って泣き始め、妹も気配に巻き込まれて泣き始め、兄も陰に隠れて泣き、ワア～ワア～と一家総悲劇のとんだ愁嘆場になりました。

後々考えるとさほど悲しい物語ではありません。私はその当時の他の記憶があまりないのですが、大泣きしている兄妹と当惑している母の困った顔の場面が思い出されるのです。

子ども時代にすぐれた子供の本にふんだんに触れることが出来た若い世代の人たちを羨ましく思います。

学 習 会 報 告

ＹＡを楽しむ会

３月例会の課題本『ワンダーランドに卒業はない』は『小さいおうち』などで有名な中島京子さんが、子どものときに読んだ本の中から感動した本を紹介しています。

中島さんは父も母もフランス文学者で、小さい時から本のいっぱいある環境で育ったようです。３歳年上の姉と『くまのプーさん』に出会った頃は、「春がほんとに来たんだ、だんだ」とか、「たまご」を「たがも」と言って遊んだことが書かれていて、子どもの本と共に豊かな子ども時代を過ごしたことがわかります。私たちは、本当に、心から、こんな子ども時代を過ごした中島さんをうらやましく思いました。

『あしながおじさん』は、続編で職業を持ち自立して生きる女性が描かれていることを知り読んでみたい、《かわいくない女の子》が主人公の『秘密の花園』（バーネット著）に共感して読んだという中島さんに親しみを持った、という声がありました。『宝島』『鏡の国のアリス』『モモ』『トムは真夜中の庭で』『ゲド戦記』・・・など、物語の先へ先へと心躍らせて読んだ記憶はあるけれど、こういう読み方もできたのか、自分の読み方は浅かったなあと、ため息がでるばかりでした。リンドグレーンの『長くつ下のピッピ』がないのは残念！　フシギ！？　という声もありました。　（重村ヒロミ）

～2022 年 11 月から 2023 年 4 月までのテキスト～

■ 11 月 25 日（金）『川っぺりムコリッタ』 荻上直子 講談社／『リスタート』 ゴードン・コーマン あすなろ書房

■ 12 月 16 日（金）『読書会という幸福』向井和美 岩波新書 ／ 『マイブラザー』 草野たき ポプラ社

■ 1 月 27 日（金）『奇跡の人 The Miracle Worker』原田マハ 双葉社 ／ 『アドリブ』 佐藤まどか あすなろ書房

■ 2 月 24 日（金）『ひと』 小野寺史宜 祥伝社 ／ 『シュトルーデルを焼きながら』 ジョアン・ロックリン 偕成社

■ 3 月 24 日（金）『ワンダーランドに卒業はない』中島京子 世界思想社 ／ 『カヨと私』 内澤旬子 本の雑誌社

■ 4 月 28 日（金）『光の子がおりてきた』 ポーラ・フォックス 金の星社 ／ 『シリアからきたバレリーナ』 キャサリン・ブルートン 偕成社

読書サークル・小平 β

長く続いてきた読書会がコロナ禍で中断したため、昨年５月に友の会事務局の声がけで有志が集まり、「読書サークル・小平β」として活動を開始しました。二ヶ月に一回、日曜の午後、なるべく新しい新書や文庫から参加者持ち寄りで課題図書を決め、それを基に意見交換をしています。

会の進行と課題図書の解説は持ち回りで、毎回 10 名ほどの参加です。課題図書を決める中で、各自が読んだり、書評で知り得た興味関心を惹く幅広いジャンルの図書が紹介されます。いわゆるエコー・チェンバーから抜け出し、自分だけでは手に取らない図書や見解に出会い、知識を更新し発想を広げ、さらには、対話することで脳を健康に保つことも期待できます。お気軽にご参加ください。

（加本 実）

～これまでの課題図書～

■ 第 1 回 2022.7.17『デジタル・ファシズム』
■ 第 2 回 2022.9.18『人新世の「資本論」』
■ 第 3 回 2022.11.20『第三次世界大戦はもう始まっている』
■ 第 4 回 2023.1.15『世界インフレの謎』
■ 第 5 回 2023.3.19 『デジタル空間とどう向き合うか』
■ 第 6 回 2023.5.14『人類の起源』

図書館について学ぶ会・ハンディキャップサービス学習会

図書館について学ぶ会では、近年増えてきた公共図書館の指定管理会社導入について勉強しています。どのような指定管理会社があるのか？ 方針や運営方法は？自治体直営との違いは？図書館を利用する側の反応は？ などなど調べながらディスカッションしています。

また、3 月 15 日に行われた図書館主催のハンディキャップサービス交流会に、協力団体として参加しました。この交流会は、図書館、小平市社会福祉協議会、図書館ボランティア、障がい当事者、ハンディキャップサービスに関心のある一般の方、そして友の会が集まり、図書館の利用が困難な方々へのサービスについて情報交換する場となっています。この交流により、デイジー図書の貸し出しやサピエ図書館の利用、来館困難な利用者に対する宅配貸出サービスなどへの提案や問題提起をふまえて、サービスの充実が図られてきました。誰もが公平に利用できる図書館を目指すために、今後もこの交流の機会を大切にしたいものです。　　（剣持 香世）

★ 講 演 会 予 告 ★

牧野伊三夫さん 講演会「絵を描くこととその周辺」

■ 日時 2023 年 6 月 18 日（日）13:30～15:30
■ 場所 小平市中央図書館 3 階 視聴覚室
■ 定員 60 人（要申込・先着順）
■ 申込・問合せ 090-1707-0860（伊藤）
■ メール sakiitou@ebony.plala.or.jp
■ 申込受付開始 5 月 20 日から 費用 無料

【講師プロフィール】 画家。小平市在住。1964 年福岡県北九州市生まれ。多摩美術大学卒業後、広告制作会社サン・アドにデザイナーとして入社。1992 年退社後、画家として活動を開始、油彩、水彩、コラージュ、壁画、音楽家とのコラボレーションなどの作品を全国各地で発表する。1999 年、美術家たちと美術同人誌「四月と十月」を創刊、現在も刊行中。

撮影／田附勝
武蔵小金井「大黒屋」にて

著書に『かぼちゃを塩で煮る』『画家のむだ歩き』『牧野伊三夫イラストレーションの仕事と体験記 1987-2019 椰子の木とウィスキー、郷愁』『アトリエ雑記』絵本『十円玉の話』『塩男』などがある。アトリエでの活動のほか、旅や料理、友人との交流など日常の暮らしを題材に執筆。酒場と銭湯めぐりが趣味。

【講演予定内容】小平の家の庭のこと／僕が好きな小平のこと／飛騨高山と大分県日田市での酒、林業応援活動と芸術／マダガスカルへの旅／今年の瀬戸内・牛窓での滞在制作について

小松由佳さん 講演会

■ 日時 2023 年 10 月 29 日（日）13:30～15:30
■ 場所 小平市中央図書館 3 階 視聴覚室
■ 詳細未定

【講師プロフィール】 1982 年秋田県生まれ。フォトグラファー。高校在学中から登山に魅せられ、国内外の山を登る。2006 年、世界第 2 の高峰 K2(8611m) に日本人女性として初めて登頂。植村直己冒険賞受賞(2006 年)。次第に風土に生きる人間の暮らしに惹かれ、2008 年よりシリアなど中東地域を撮影。2011 年からシリアの紛争によって多くの難民が生まれる光景を目にし、シリア難民の取材を始める。現在、シリア人の夫と二人の子供と東京都在住。夫の親族が暮らす、トルコ南部のシリア難民コミュニティを継続して取材。2022 年は 11 年ぶりに夫の故郷であるシリア中部パルミラを取材した。

著書に『人間の土地へ』（集英社インターナショナル 2021 年 9 月）。
第 8 回山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞、第 11 回モンベル・チャレンジ・アワード受賞など。
＊小松由佳 HP「小松由佳　ウェブサイト」で検索